

第12回

住まいと

コミュニティ

づくり

活動助成



活動地域：新潟県佐渡市

概要：

当団体は、佐渡島の歴史的建造物の保存・再生を目的に活動を行っています。佐渡島は能の大成者・世阿弥の配流の地。32棟の野外能舞台が現存していますが、使われているものは少なく、多くが放置されています。助成対象活動では、能舞台とそれを取り巻くコミュニティの再生・活性化をめざした活動を展開しました。建築系の学生（芝浦工業大学、ものづくり大学）、職人、住民などの参加を得て「佐渡職人塾」を開催し、能舞台の修理ワークショップを実施、完成後は薪能を実施するとともに、地域と参加者の親睦を深め、活動への理解を募るために「佐渡職人塾報告会」を開催しました。島外の学生約40名の参加を得た「佐渡職人塾」は、交流人口の拡大を図る目的もあります。3月に開催された「佐渡・地域財オークション」（佐渡に拠点を置く市民活動団体と支援者が集まり、活動団体がめざす「未来の佐渡」について発表するとともにマッチングを行うイベント）では、最も高い評価を受けることができました。

〔佐渡文化財研究所〕

- ・ 代表者：石塚 英夫
- ・ 連絡担当者：平原 匡
- ・ 連絡先：〒952-1314 新潟県佐渡市河原田本町271番地1
- ・ TEL：0259-57-0118
- ・ FAX：0259-57-0122
- ・ E-mail：hira2400@yahoo.co.jp
- ・ ホームページ：http://www.shokunin-juku.com/

1 団体の目的と経緯

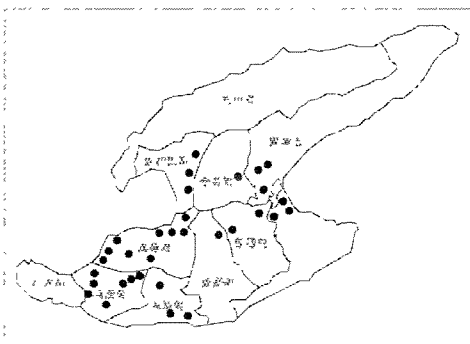
(1) 佐渡の能舞台

新潟県佐渡市(佐渡島)は能の大成者世阿弥配流の地。現在でも32棟を数える野外能舞台群が現存しており、そこから佐渡と能の密接な関わりを容易に想像することができる。しかし、全国でも稀な歴史遺産ではあるが使われている能舞台は少なく、多くが放置されているのが現状である。本事業は島内外の人材体験交流事業「佐渡職人塾」により「佐渡の能舞台」を「保存」「活用」し「再生」することを目的としている。

(2) 佐渡文化財研究所設立までの経緯

2002年3月、「歴史的建造物の保存」と「伝統木造技能の継承」を掲げ、財団法人国際技能振興財団と社団法人新潟県建設業協会佐渡支部の共催で伝統木造技能講習会「佐渡職人塾」が行われた。「佐渡職人塾」とは島外の建築技能・技術者を佐渡に招き、島内のそれとの技術交流を目的とする交流講座であり、建築技能・技術者の日々の仕事から離れたスキルアップを目的としている。また、2003年からは建築学を学ぶ大学生を対象にした学外講習会を開始。佐渡市(当時佐渡郡佐和田町)の二宮神社能舞台の修理工事を行った。2004年8月で第4回目を迎え、前年から引き続き、二宮神社能舞台の改修工事を行い、加えて新たに旧相川町の築80年の民家の改修作業も行った。また、それらの活動を通し、この時期から現在の佐渡文化財研究所という団体の基礎を築いた。また2003年10月と2004年8月には二宮神社能舞台で「薪能」を開催。佐渡特有の歴史的建造物である能舞台の修理・保存だけでなく、それを支える佐渡の伝統文化の継承とPRを図った。

2004年3月、島内10市町村の合併により佐渡市が誕生。以上のような活動の全島的な広がりを期待し、特定非営利活動法人化することとした。



佐渡島の独立能舞台分布図

(3) 特定非営利活動法人化に伴う団体趣旨

佐渡島は歴史・民俗の島である。島内には歴史的建造物が今なお多く残り、特有の文化を色濃く残している。しかし、昨今では維持・管理が困難なものも多く、修理・保存が急務なものも少なくない。当団体は佐渡に残る歴史的建造物の保存と活用を目的とし、調査・企画・提案・事業化・運営管理を行うことをめざし設立するものである。

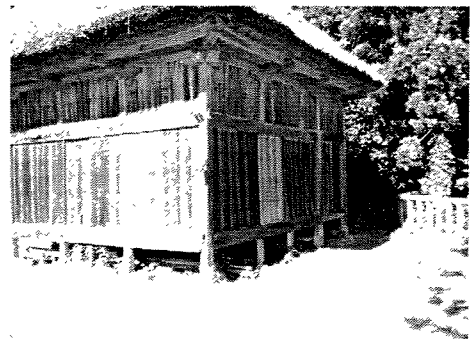
2 活動の内容

(1) 2003年10月：「第3回佐渡職人塾」実施(本事業のきっかけとなった活動)

佐渡市(当時旧佐渡郡佐和田町)の二宮神社能舞台を島内建築職人と建築学を学ぶ大学生が共同作業で修理。能舞台の「正面柱の根継ぎ」「茅屋根の葺き替え工事」に取り組んだ。応急修理工事だけでなく、積極的な利活用を図るため、地元アマチュア能楽団体と薪能を企画、実施。「修理」「保存」から「活用」の重要性を訴えた。地元宮大工、島内に健在の県選定保存技術保持者である茅屋根職人を講師として招き、伝統技術の継承を試みた。

(2) 2004年8月18日～31日：「第4回佐渡職人塾」実施

芝浦工業大学(東京都港区)、ものづくり大学(埼玉県行田市)の建築学を専攻する学生が参加、前回に引き続き、二宮神社能舞台(佐渡市二宮)の修理をテーマとする技能講習会を行った。参加大学生は40名。佐渡島では若者の人口が減少。近年急速に高齢化が進んでいる。夏の一時的な期間だけでも、若者に佐渡へ集まってもらうこと、つまり「島内外の交流人口の増加」が「伝統木造技能の継承」と並ぶテーマである。海を渡り訪れた離島での経験は参加学生にとっては非日常。都会のキャンパスでは触れることのできない歴史的建造物を研修の題材とし、熱心に取り組んでもらった。本講習会では演能の際



二宮神社能舞台 地謡座(ごうたいざ) 建設部分

に必要な「地謡座」という部分を増築（本舞台とは別の謡手が座る場所、舞台向かって右側）。「佐渡職人塾」の立ち上げ当事からの協力者である地元宮大工棟梁の川上光太郎さんに指導をお願いした。島外から技術者、技能者を招くということも過去何度か行ってきたが、今後の当団体のNPOとしての基盤強化、佐渡島内の方々からさらにご協力をいただくという意味で地元でのネットワーク強化をめざした。また、地謡座増築工事終了後、地元有志により組織された二宮神社新能実行委員会が「二宮神社新能」を開催。増築された地謡座も含め、リニューアルされた能舞台を使用する機会を設けた。200人を超える観覧者が来場、盛会とすることができた。

（3）2004年10月30日：「佐渡職人塾報告会」の実施

地域と参加者の親睦を深めるため、また団体の活動に対して広く理解を募るために、活動報告会を行った。夏に行われた活動を反省し、今後の活動について考えた。

（4）「みんなで選ぶ佐渡の未来、あなたが審査員！ 佐渡・地域財オークション」に参加

佐渡で活動するNPO、市民活動団体が日々の活動を発表し、支援者とのマッチングの場を作ろうと企画された発表会「みんなで選ぶ佐渡の未来、あなたが審査員！ 佐渡・地域財オークション」（2005年3月12日開催、主催：新潟県NPOサポートセンター）に参加。NPO活動を「地域財」と考え、その価値を評価するということから、「地域財オークション」と名付けられた。小学生以上約80名の参加者が「佐渡の地域課題解決をこれから具体的に進めてくれる」と期待される団体に投票を行い、佐渡文化財研究所はオークションで最も高い評価を得た。



大工棟梁から手ほどきを受ける参加者

3 活動の成果

（1）活動の評価

①「技能講習会」としての評価

大学でのカリキュラムではこのような実技講習会は設けられていないことがほとんどである。それゆえ参加した大学生にとっては非日常であり、熟練の建築職人に指導を受け、取り組む「ものづくり」の作業はキャンパスでは得ることができない大変有意義な経験であることは容易に想像がつく。立ち上げ当初のように建築技能・技術者が前提でないため、未熟な点もあることは確かであるが、入門編としては十分すぎるほどの内容である。

②「交流事業」としての評価

技能講習会としての側面だけでなく、「佐渡職人塾」のもう一つの重要な要素となるのが、島内外の交流人口増加のための「交流事業」としての側面である。島外から訪れる若者たちが、佐渡で鮮烈な経験をし、佐渡の魅力を持ち帰り、広めてもらうことが次回へ繋がる。交流事業として一番重要な事である。

③地元住民の今回の活動の受け取り方

概ね好意的に受け入れられた。島外から若者が来るということは歓迎されるが、建築学を学んでいる学生だからと言って技術が伴うわけではない。大学がなく若者を目にするのが少ない島の中において大学生の存在が悪い印象を与えるのではないかと心配したが、心配のしすぎであった。講師を引き受けて下さった宮大工棟梁も未熟な参加者に対して、丁寧に説明して下さった。

④行政との協働

行政との協働という側面では、当団体と協働に至るまでのプロセスをうまく重ねることができなかった。今後、地域で生きるNPOとして、反省すべき点である。



竹の欄干を作成している様子

団体の認知度とその評価:「佐渡職人塾」という言葉が親しみ易いということもあり、そちらの方の認知度が高かったといえるが、今年度末、NPO団体が共催して行ったNPO団体のPR集会「佐渡・地域財オークション」において、佐渡文化財研究所が金賞をいただいたことは、今年度における最大の成果であったと言える。NPO活動において、このような評価は意義あるものである。

(2) 活動の成果

地謡座の設置により、二宮神社能舞台にて演能をする際の利便性が向上した。前年度に引き続き行った「薪能」は来場者が増加。8月という帰省シーズンに設定したこともあり、前年より多くの方々にお越しいただいた。また、新聞・テレビ各社で好意的に扱われた。「地域再生」「地域活性化」が話題になる昨今において、マスメディア上でも存在感を示すことができた。

4 今後の取り組み

(1) 「佐渡職人塾」の可能性

① 島外の大学生のサマースクールとして

第3回から第4回佐渡職人塾で試みたように都市部、それに限らず島外の大学・専門学校生の実習の場として佐渡の環境を開放する。大学、またはそれに当たる世代の人口が極端に少ない佐渡、またフィールド不足に悩む都市部の大学・専門学校の不足な点を学外講座として相互補完することになる。

② 島外の建築技能者・技術者の技能講習会として

佐渡の歴史的建造物群は全国的に見ても非常に貴重であり、佐渡の歴史的遺産であり観光資源である。これらを全国の建築技術者・技能者に解放し、技能講習会の題材とすることでスキルアップ、リフレッシュ講座の継続開催が可能。島内外の建築技術者・技能者が交流する場にもなり、交流人口増加、佐

渡ファンを生み出すきっかけとなる。

(2) ソフト面の整備

① 「薪能」

修理・修復というハード面の整備・充実はもちろん必要であるが、能舞台を使用する頻度を上げることが大切である。「薪能」というイベントだけでなく、島外のアマチュア能団体に佐渡の能舞台で稽古合宿を行ってもらうなど、地元のみならずソフト面においても島内外の交流事業が不可欠であると考えられる。島内外の小中学生向けの「能の体験ワークショップ」は需要があるように見え、企画・実践が急務であり、能楽振興も重要な事業となりうる。

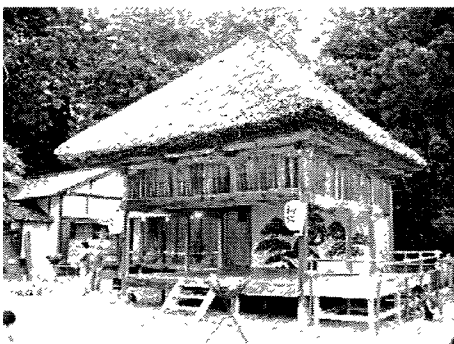
(3) NPO法人佐渡文化財研究所の設立

① 行政でもない企業でもない中間的組織としての役割

今回の事業に伴い見えてきた問題が歴史的建造物・文化財を取り巻く組織の分断である。能舞台は行政が指定する文化財でもあり、観光面では重要な観光資源である。また人材育成という観点から見ればこの上ない題材であり、「佐渡職人塾」のような講習会を行うことにより、多方面への影響を期待することができる。しかしながらこれらの各分野(文化行政・観光・人材育成)はそれぞれ分断されており、一つの地域振興という目的にまとめられていない。今後はNPO法人として、それらのネットワーク化を図る必要がある。

(4) 今後の課題

- ・ 薪能の継続的運営のための実行組織の強化。スタッフ、協力者、理解者などネットワーク形成が必要。
- ・ 県内の大学生(職人塾への参加者)に対するPR、参加希望者の増加に期待。



薪能に向けて準備された能舞台



佐渡職人塾報告会の様子

- ・演能の継続には能舞台の橋掛の修理が必要。次年度の課題とする。

- ・準備不足で大学の能サークルを佐渡に誘致することができなかった。継続して佐渡に来てもらえそうな能団体を探す必要がある。

現存する独立能舞台リスト（旧市町村名）

No	名称	所在地	
		市町村	地域名
01	本間家	両津市	吾湯
02	諏訪神社		湊端
03	金峰神社		上横山
04	熱串彦神社		長江
05	諏訪神社		原黒
06	住吉神社		住吉
07	八幡若宮神社	佐和田町	下長木
08	二宮神社		二宮
09	白山神社		山田
10	羽黒神社	金井町	安養寺
11	牛尾神社	新穂村	湊上
12	熊野神社		武井
13	加茂神社	畑野町	栗之江
14	大膳神社	真野町	竹田
15	総社神社		吉岡
16	諏訪神社		豊田
17	小布勢神社		西三川
18	気比神社		椿尾
19	熊野神社		静平
20	大山祇神社		笹川
21	八幡若宮社		四日町
22	白山神社		大倉谷
23	白山神社	羽茂町	小泊
24	気比神社		上村山
25	草刈神社		羽茂本郷
26	張弓神社		大橋
27	白山神社		大崎
28	諏訪神社		滝平
29	白山神社		滝平
30	白山神社	赤泊村	上川茂
31	徳和神社		徳和
32	春日神社		三川

佐渡職人塾のこれまでの歩み

 平成14年3月

- ◎佐渡職人塾の立ち上げ
- ◎旧佐渡郡畑野町の加茂神社能舞台の修理を通して伝統木造建築について考える。
- ◎佐渡の名所・名建築を巡り、佐渡を楽しむ。

▼職人塾の開始

平成14年11月

- ◎旧佐渡郡真野町の気比神社能舞台の修理を通して伝統木造建築について考える。
- ◎前回より大きな修理工事を行う。応急修理の必要な能舞台の修理。
- ◎前回以上に多くの建築学を学ぶ大学生が参加。

▼職人塾のPR

 平成15年10月

- ◎旧佐渡郡佐和田町二宮神社能舞台を島内建築職人と建築学を学ぶ大学生が共同作業で修理。
- ◎応急修理工事だけでなく、積極的な利活用を図るため、地元アマチュア能楽団体と薪能を企画、実施。
- ◎修理保存から活用への道筋が出来る。



リニューアルされた能舞台での薪能



「佐渡・地域財オークション」の様子